

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」


事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 宮城県大郷町 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大郷小学校</li> <li>第2学年（1組28名、2組32名、合計60名）</li> <li>第3学年（1組28名、2組24名、合計52名）</li> <li>・講師 アスリートジャパン Esashi 江刺 義之 先生</li> </ul>
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 教科名（ 体育 ）</li> <li>② 行事名（ ）</li> <li>③ その他（ ）</li> </ul> <p>(2) 地域における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① イベント名（ ）</li> <li>② その他（ ）</li> </ul>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろなコースを、走ったり、跳び越したり、リレーをしたりしながらハードルリレーの楽しさを味わう。</li> <li>・いろいろなリズムでハードルを走り越したり、自分に合ったリズムで走り越したりすることができる。</li> </ul>
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備運動</li> <li>① 跳びはねる動きを取り入れた運動。 全身運動（走の運動） →手を回しながら。両手を挙げながら。片足を交互に上げながら。</li> <li>② ミニハードルやハードルを跳び越えながら走る（5m間隔）。 両手を前後に広げ、利き足を振り上げて走る。 リズムカルに跳び越えながら走る。 ミニハードルの数を増やして走る。</li> <li>③ クールダウンとストレッチ 両手を広げ、ステップしながら前へ進む。 疲労が溜まった足の疲れをほぐすためのストレッチ。</li> </ul>



<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体の動かし方を分かりやすく教えていただいた。そのため、児童は理解を示し、楽しく運動に参加することができていた。江刺先生が話す言葉に真剣に耳を傾けていた。各学年とも、1時間という短い時間だったが、適切なハードルの跳び越し方を身に付け、リズムよく跳ぶことができるようになった。</li> <li>・うまく跳べている児童を、みんなで見合ったことで、それを参考にしながら練習に意欲的に取り組む児童が多く見られた。</li> </ul>	
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「陸上クリニック」は、毎年、江刺先生にご指導いただいているものである。実施に向けて、町の施設である B&amp;G 海洋センターの担当者と体育主任が連絡調整をしている。体育主任が、各学年の児童の実態と、教師の要望を踏まえ、それぞれに合った領域の運動を指導してもらうようにしている。</li> </ul>	
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年実施している「陸上クリニック」であるが、今後の課題として、以下の点が考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 中学校でも実施することになった場合、日程調整が必要となる。</li> <li>② 例年、秋に実施していたが、今年度は日程が合わず冬になった。冬は、体調を崩す児童が多くなることや、インフルエンザによる学級閉鎖により実施が難しくなる。常に秋に実施する方向で調整していく。</li> </ul> </li> </ul>	
<p>9来年度以降 の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童は、毎年行われる「陸上クリニック」に楽しく参加している。また、例年、1時間の授業であるにもかかわらず、江刺先生の指導により、児童の技能が確実に身に付いている。児童が、体を動かすことに楽しみを見出しながら参加できる「陸上クリニック」を、来年度以降も実施していく予定である。</li> </ul>	